

看護実践能力と看護職員や患者満足との関係について

ー A病院でのアンケート調査結果よりー

氏 名 上田 幸恵

指導教員 鳥取部 真己

要旨

自分自身の看護師としての経験上、高い看護スキルを持つ看護師が、看護ケアを行うことによって患者の回復に良い影響を与えると考えていた。しかし、診療報酬上は、看護師の評価は患者の人数に対する看護師の配置人数が評価の中心となっており看護師の能力の評価は含まれていない。その結果、病院組織の中で多くの職員を占める看護師に対しては、人数を配置することに注目がおかれ看護師の能力開発や高いスキルを持つ看護師の配置については後回しにされている現状がある。

そこで本研究では、高いスキルを持つ看護師の看護が看護職員や患者に与える影響や患者満足が高くなることで病院経営に良い影響を与えるのではないかという問題意識を明らかにすることとした。

調査方法は、A病院の看護職員に職務満足と看護実践能力についてアンケート調査を行い、さらにA病院に入院中の患者に患者満足度調査を行った結果を因子分析によって従属変数と独立変数を構成し、看護師満足や患者満足を高める要因について重回帰分析を行った。

その結果、看護師満足は患者との関係や仕事特性が関係しており、患者満足は看護師満足や看護師の対応・説明と関係していることがわかった。看護実践能力については、明らかに患者満足に影響しているとはいえなかったが、患者との関係や同僚、医師との関係を重視することがより良い看護ケアにつながるということがわかった。またそのためには、上司のリーダーシップやワークライフバランス施策が重要であることが示された。

看護は患者と看護師の双方向の関係の中で成り立つものであり、今回患者との関係を良好に保つための取り組みが重要であることが示唆された。今回は、業務量などの要因は検討されていないが、看護師満足や病院経営を検討するうえで重要な指標となるため、さらなる検討を加えていきたい。